



上杉 正敏議員

**Q** 映画祭や映画のまちの推進についての見解は

**A** 映像作品のロケ誘致や撮影支援、作品公開を積極的に取り組む



**Q** 映画祭や映画のまちの推進についての見解は。

**A** 本市では、これまでから映像作品のロケ誘致や撮影支援、作品公開に伴う情報発信等に積極的に取り組んできた。このような取組については、本市の魅力向上や観光誘客にもつながる非常に有意義な取組であると認識しており、この「映画のまち」の取組をさらに加速させたいと考えている。「映画のまち」としての新たな挑戦である映画祭の開催についても同様である。この映画祭は、市の一般財源に頼らず、企業協賛やふるさと納税を活用したクラウドファンディング等による革新的な試みであり確実に開催できるよう市長が先頭に立って取り組んでいく。

**Q** 私が紹介したクラウドファンディング寄附者の進捗状況は。

**A** 具体的な手続きについて進めている。



▲彦根城でのロケ風景



馬場 和子議員

**Q** 「ひこねしちよーCH」の果たした役割から今後の展望は

**A** 磨かれたスキルを生かし「彦根市 YouTubeチャンネル」で発信する



その他の質問

- ・彦根城世界遺産登録の展望について
- ・彦根市観光振興計画の展開について
- ・彦根市シティプロモーション戦略について

**Q** 彦根市長公式YouTubeチャンネル「ひこねしちよーCH」の果たした役割の数字的な、職員のモチベーションアップへの効果は。

**A** 市長と職員がワンチームで市政情報や彦根の魅力伝えるため令和4年4月27日から令和7年5月9日までの3年間で300本の動画を公開した。視聴回数は364万回を超え、彦根の認知度向上の一翼を担うことができ、職員への応援コメントでモチベーションアップにつながった。

**Q** 磨かれたスキルを生かし彦根の今を発信することで効果的な広報戦略となるのでは。

**A** これまで積極的に発信してきた「ふるさと納税」や「Jリーグ誘致」などを担当職員が出演して「彦根市YouTubeチャンネル」から発信していきたい。



▲彦根の情報を発信する彦根市YouTubeチャンネル



森田 充議員

**Q** 小中学校間でタブレット使用頻度にバラツキはあるのか

**A** 小中学校間でタブレット使用頻度にバラツキが見られる



その他の質問

- ・デジタル教科書の導入状況は
- ・新市長のふるさと納税に対するスタンスは
- ・新市長の給与等20%削減の根拠は

**Q** 授業以外でのタブレット活用方法は。

**A** 休み時間にはタイピングやプログラミング、デジタル百科事典を使った調べ学習に、家庭学習ではデジタルドリルや動画撮影をして課題提出などに活用している。

**Q** 休み時間を活用し国スポ・障スポを現地観戦できない児童生徒に、地元彦根の選手の活躍している姿をタブレットにて動画共有できないか。

**A** 録画したものを彦根市YouTubeチャンネルで配信することは可能。

**Q** デジタル教科書および学習タブレット使用における課題は。

**A** デジタル教科書については画面や文字の大きさの関係で教科書の1ページが1画面に表示しきれないことや、教員側の習熟度合いによる活用の差が課題です。学習者用タブレットについては使用時に約45%の児童生徒が「少し目が疲れる」、「目が疲れる」と回答しており目の健康への配慮が必要。



▲紙の教科書とデジタル教科書（イメージ）



中川 睦子議員

**Q** ふれあいの館を再開すべきでは

**A** 閉館は議会で承認されたことから再開はない



その他の質問

- ・子どもセンターの運営について
- ・東山児童館について
- ・金亀公園の運営について
- ・放課後児童クラブの運営について

**Q** 閉館して2か月。これまで施設運営について検討しているが、現状と今後については。

**A** 閉館後、地元自治会へ利活用の打診や県立大学と複数回の協議を行ってきた。具体的な活用方法は、現在も交渉中で、様々な可能性を模索している。本市の財政負担が生じない条件で、市民に納得のいく利活用策を検討していく。

**Q** 施設が閉館・放置され、劣化が進むことが心配されるが見解は。

**A** 職員が定期的に現地確認を行い、風通しなど必要な管理をし、財政負担を伴わない形で現状維持に努めている。

**Q** 子どもたちの健全育成、保護者支援の観点から児童館の再開を検討すべきでは。

**A** 施設再開を求める要望は寄せられていない。閉館については、議会で承認をされたことから再開は考えていない。



▲閉鎖されたふれあいの館



森野 克彦議員

**Q** リーフレットはどのように周知されているのか

**A** 児童生徒へは1人1台端末を活用  
保護者へは連絡用アプリで周知

**Q** リーフレット『不登校のイメージって?～学校に行けないってどういうこと?～』はどのように周知されているのか。

**A** 児童生徒へは1人1台端末にショートカットを作成し電子版リーフレットを見られるようにした。小学1年生以外は今年度5月中旬までに設定を完了しており、小学1年生についても6月中旬までに設定を完了した。今後、各校でこのリーフレットを活用し、子どもたちが不登校について正しく理解できるように指導していく。

また、保護者用連絡アプリを活用して保護者へもリーフレットの周知を図り、家庭においても不登校について理解を深めていただく機会にしたい。



その他の質問

- ・熱中症対策について
- ・オンラインカジノの危険性と違法性の教育について
- ・小中学校の隔週水曜日を午前授業にしてはどうか



▲滋賀県が作成したリーフレット



角井 英明議員

**Q** マイナンバーカードの  
交付遅れへの対策は

**A** 業務のより一層の効率化を進め  
改善していく

**Q** 早い時点で国にマイナンバーカード更新手続きをした市民が、交付遅れでマイナ保険証が使えない状態になった原因は。

**A** 更新申請の増加と住民異動の時期が重なり、窓口や電話対応等の業務が増えたため。

**Q** マイナンバーカードの交付遅れを防ぐには職員の増員が必要では。

**A** 現在の職員体制で一層の業務の効率化を進める。今後も更新の増加が見込まれ、マイナンバーカードの役割が高まり業務の複雑化や多様化が想定され、業務改善や職員体制の充実等体制整備の検討を進める。

**Q** マイナンバーカードの便利さがいわれるがマイナンバーカードの交付が遅れた。今後こうした事態を起こさないためには。

**A** マイナンバーカードの交付が遅れる原因にはいろいろな要素があり、改善できるところから改善していく。



その他の質問

- ・公共施設での再生エネルギーへの転換を計画的に進めるべきでは
- ・夜間救急搬送された患者への対応は適切か